

## 講演

就職問題懇談会（立教大学 総長）吉岡 知哉

皆さま、おはようございます。就職問題懇談会で座長を務めております、立教大学の吉岡でございます。就職問題懇談会は、学生の就職活動の在り方について検討協議を行うために、大学、短期大学、高等専門学校関係団体の代表から構成された組織でございます。具体的な活動といたしましては、学生が学業を妨げられることなく、円滑な就職活動を行えるよう、大学等が取り組む事項を「申し合わせ」として取りまとめ、全国の大学等に周知徹底を行っております。また、大学側を代表し、経団連などの経済団体と意見交換や要請を行っております。このように学生の就職活動の改善に取り組んできた就職問題懇談会として、本日は大学側の視点から2点、お話をさせていただきたいと思っております。

1 点目は、学生の就職・採用活動時期についてでございます。グローバル化や情報通信技術の急激な進展により、社会構造が大きく変化している状況の中で、大学は学生に対し、この時代に対応し、未来を切り開いていけるような高い学力と、豊かな人間性を身に付けさせて社会に送り出すという社会的な使命を負っております。そのため、大学では大学教育の質を高めるべく、大学としてのポリシーの明確化や単位の実質化、教育方法の工夫など、さまざまな大学改革に取り組んでいるところです。その取り組みと合わせて必要なことが、学生がその本分である学業に、落ち着いて専念できる学修環境の確保です。過去におきましては、学部3年生になるとすぐに就職活動が始まり、それが長期にわたるといふ、正常な大学教育を脅かしかねない状況がありました。このため、就職問題懇談会といたしましては、企業側に対し、長年にわたり就職・採用活動の早期化・長期化の是正について要請を行ってまいりました。

その結果、就職・採用活動開始時期については、平成27年度卒業修了者から、広報活動3月以降、採用選考活動8月以降に変更することが合意され、実施されました。現在、採用選考活動の開始は6月に変更されておりますけれども、就職・採用活動の早期化・長期間を是正するという趣旨は堅持したものとなっており、今年度も、また来年度も同じスケジュールが維持されることとなっております。現行日程については、学部3年次の授業への出席状況が改善した、あるいは後期試験に落ち着いて取り組めるようになったという成果が確認されています。学生が混乱することなく、安心して学修できる環境を確保するためには、就職・採用活動開始時期の順守について、大学・企業が足並みをそろえて取り組むことが重要です。

就職・採用活動開始時期は、経団連会員企業のみというふうには誤解されがちですけれども、政府からも内閣官房、文科省、厚労省、経産省の連名で、約440もの経済団体、業界団体に対して要請を行っております。これは社会全体の取り組みであるということをご理解いただければと思います。就職問題懇談会といたしましても、各大学等に対し、

引き続き、ルールの徹底を求めてまいりますので、企業の皆さまがたにおかれましても、就職・採用活動時期設定の趣旨をご理解いただき、ともに学生を育てていくという観点からスケジュールの順守をお願いいたします。

さて、現在の学生の就職・採用活動に目を向けますと、今月から採用選考活動が開始され、学生は現在、採用面接などに一生懸命取り組んでいるところでございます。6月は大学にとりましては、授業期間に当たりますので、企業におかれましては学生の学業等の妨げにならないよう、面接や採用試験などが、授業、留学、あるいは教育実習等と重複する場合には、土曜、日曜、祝日、あるいは平日夕方の活用や、選考日程を別にするというような柔軟な対応を取っていただくようお願いいたします。また、採用面接におきましては、学生の本分である学業成果についても、例えば成績証明書等を活用するなどして、十分に評価していただくようお願いいたします。

なお、必要な人材確保に熱心になるあまり、内々定を出す代わりに、他社への就職活動をやめるよう強要することや、あるいは内々定段階で誓約書を要求することは、学生の職業選択の自由を妨げる行為ですので、このような行為は慎んでいただくよう、改めて申し上げます。

2点目といたしまして、産学連携によるキャリア教育についてお話しいたします。かつて大学生活と社会生活との接続は、文字通り卒業時点の就職という、いわば“点”において捉えられていました。しかし、現在では、生涯を通じたキャリアという“線”といえますか、あるいは“面”という形で捉えられております。就職は、人間の成長と結び付いたキャリア形成の1段階として理解されるようになってきているというふうに私は考えております。平成23年度の大学設置基準の改正で、キャリア教育の推進に関しまして、大学内の組織間の有機的な連携と体制整備に関する規定が整えられて、現在までもう既に数年たっておりますけれども、これまでの間に各大学において、初年次から体系的なキャリア教育を行うことへの理解が随分浸透し、さまざまな取り組みが行われるようになっております。

大学における、キャリア教育の一層の充実を考えたときに、なくてはならないものが企業の皆さまからのご協力です。特に、産学協働の人材育成である、インターンシップに対する企業への期待は非常に大きいというふうに考えております。インターンシップにつきましては、昨年度から文部科学省において有識者会議が開催され、インターンシップの在り方について検討が進められていると承知しております。今後一層、質の高いプログラムが多く実施されていくことが期待されます。インターンシップは学生にとって新たな学修意欲を喚起するきっかけになることが期待されますが、大学にとりましても、企業と協働してプログラムを作ることで、アカデミックな教育研究と企業ニーズを結び付けることができ、大学の教育内容や教育方法の改善にも役立てられる、そういう意味ではたくさんのメリットがございます。大学側といたしましては、事前事後の学修をしっかりと行い、長期のインターンシップで教育効果の高いものについては、正規の授業として単位化するというのを既に実施しつつあります。地元の企業や自治体による協議会と一層連携して、

より良いインターンシップを地域全体で実施していきたいと考えております。

一方、就職・採用活動開始時期の前にインターンシップで実質的な選考を行うことや、あるいは「ワンデーインターンシップ」といわれるものの中には、非常に短時間、短期間で、就業体験を伴わない、単なる企業説明会のようなプログラムがございます。このようなものをインターンシップと称するという事は、本来、進めるべきインターンシップ全体に対する信頼を損なうこととなりますし、また、学生の学修環境に悪影響を与えることとなります。大学と企業、双方が正しい理解の下、教育活動の一環としてのインターンシップというものを推進してまいりたいというふうに考えております。インターンシップの主役は学生です。大学、企業それぞれ事情はございますけれども、広い見地から将来のわが国を担う若者を育成するため、連携していくということを強くお願いしたいと思っておりますし、大学としてもそのような方針で進めていきたいと考えております。

結びに、本日のガイダンスは全国の大学、企業などの関係者が一堂に会し、学生のキャリア支援やより良い就職活動について意見交換を行うことで、産学のネットワークを形成できる非常に良い機会でございます。大学側といたしましても、本日このように多くの皆さまの参加を得て、本ガイダンスが盛大に開催されることを、大変うれしく思っております。ご参加の皆さまにとって、有意義なものになりますように祈念いたしております。ご清聴ありがとうございました。